自由 10

房総半島におけるニホンザルと外来種の混血に関する研究

萩原　光（房総のサル管理調査会）・川本　芳（京都大・霊長研・集団遺伝）

1995 年千葉県房総丘陵部の主要個体群生息地から南へ約 20km 離れた地域（館山市）で、長尾個体（外来種形態特徴）を含む一群を確認した（千葉県自然保護課、房総のサル管理調査会、1996）。主要個体群が地域的に離れたこの個体群と混血を起こす可能性が疑われた。主要個体群とこの群れの相違点を上げる。外部形態特徴としては、尾が長く、腰部分が赤毛であり、若い個体の顔が多少白く見える。その他の特徴としては、房総のニホンザルにない鳴き声である点（イーヨー、ハーフーなどと聞こえる）、樹上を多く移動する傾向が認められる。また、96 頭以上と房総ではサイズが大きな群れにも関わらず、地元からの被害報告が少ないのも特徴的な性質といえる。 これまでの調査で、主要個体群生息地域から、血液サンプル 22 個、皮膚標本 11 個を採集している。また、相澤敬吾氏に協力いただき、外来種の形態をもつ白浜町の群れから、糞試料を 29 個採取している。その 29 個の糞に付着する細胞からミトコンドリア DNA の塩基配列を決定して、外来種の判別をおこなうべく、実験を進めた。最初に分析した 9 サンプルのミトコンドリアＤループ領域の結果では、分析した試料のすべてが同じタイプで、既に知られている房総の 2 つのタイプと異なっていた。比較可能なデータと照合した結果、発見したタイプはアカゲザルに近いと判定された。今後は、観察と分析を継続して交雑状況の把握を進める予定でいる。

自由 11

屋久島におけるヤクシマザルの遺伝的交流と生態学的変異の対応関係

早石周平（京都大・理・動物）

鹿児島県の屋久島でヤクシマザルのミトコンドリア DNA (mtDNA) の変異型の島内分布を調べた。

遺伝試料は二日以上経っていない糞から調製した。mtDNA の D-loop 領域 203 塩基の配列を比較し変異型を検査した。

36 個体の試料から 4 つの変異型が検出された。4 変異型は互いに 1 あるいは 2 カ所の塩基置換によって区別された。それぞれの変異型の試料数は 32、2、1、1 である。試料数のもっとも多かった変異型が島内に広く見つかっており、他の 3 変異型は島内西部の海岸林帯に見つかった。

今後さらに島内を広く、とくに高標高部で糞を採取して、変異型の島内分布を明らかにし、母性遺伝する mtDNA を母系集団の標識として、オスの移住が植生帯を越えるかどうかを調べていく予定である。

自由 13

ニホンザル雄における攻撃性と繁殖の内分泌学的相互関係

Gordon Barrett (Kyoto University, Primate Research Institute, Department of Ecology and Social Behavior, Inuyama, Aichi, Japan)

In a previous study, I collected fecal samples and behavioral data from six wild male Japanese macaques of the Arashiyama E group, three of high rank and three of low. I spent the following year analyzing these samples in the lab to quantify testosterone and